



麦笛

19号

2013年8月24日

発行
東京尊商会広報委員会

発行人

村井 健 (51期)

〒270-0021 松戸市小金原4-29-20

TEL・FAX 047-345-1233

勤務先 〒163-0022 新堀区新堀

〒26-8-302

TEL 03-5155-2868 FAX 03-5212-2088

E-mail

murai-49@central-consulting.co.jp

同窓の絆

母校100周年近づく

未来へとつながる夢と絆

副運営委員長 島 久雄(42期)



10月12日の記念式典まで2
カ月を余すところとなりまし
た。

式典の事業は横田運営委員
長の元に総務、財務、事業、

行事の各部会を置いて着々と
諸準備が進んでいます。

尊商会の皆さんに7月末ま
でに協賛金をお願いしてご協
力を頂いた状況は、7月26日

現在で約900
名の会員から約
2300万円を頂
き、企業、団体か
らの協賛金と合わ
せて約3500万
円の見込みとのこ
とです。

当初の事業予算

4100万円には
未だ満たなく7月
末の締め切りの後
も各期幹事会にも
呼びかけて引き続
きご協力を頂いて

いるところです。

ご協力をいただいた事業費
で記念事業として学校での記
念式典、その後のホテルでの
祝賀会、記念誌の発行、学校
へのプラスバンド楽器購入他、
奨学金の補填、学校林の記念
植樹、また当日の文化事業と
して一般市民対象にOBと著
名人による講演会と生徒向け
に生徒の希望を入れたアトラ
クションを検討しています。

これらの広報活動も事業準
備に合わせて進めており、小
樽市民の眼に入れるため小樽
駅正面の「グリーンホテル」
壁面に看板を掲げ、国道歩道
橋上にも設置する一方、のぼ
り、ポスターを市内各所に掲
示しています。

また 市民へのPR大イ
ベントとしては7月27日の「潮
まつり」の機会に「潮まつり
一 生徒によるねりこみ」
を実行しました。

100周年の幟、プラカード



を65名の生徒によるねりこみ
によって、市民に強くアピール
することが出来て強い印象を
残すことになったと思います。

“未来へとつながる夢と絆”
の合言葉のもと100周年を
祝うことを契機に次の100
年に向けて、学校と生徒を支
援する尊商会であり続けたい
と思います。そのためには先
ず10月12日の記念式典、祝賀
会に多くの会員が参加するこ
とを期待しています。

ご都合で出席できなかった
方には10月19日の東京尊商会
の「同窓の絆の会」の一週間
前に記念式典が盛大に終わっ
ているでしょうから、本部尊
商会より出席される大森会長、
横田運営委員長から皆さんに
ご報告していただきます。

母校100周年に思うこと



池田善充
(45期)

1913年(大正3年)7月
開校以来、今年で丁度100年
を迎えた母校ですが、その長い
時間の中のほんの3年間を過ご
しただけでも誇りを感じるし、
感慨深い思いです。

戦後の急速な日本が発展す
る中での位置づけとしての小
樽はシベリア木材の輸入基地
と道内から集められた石炭を
本州方面へ運ぶための港湾と
しての活躍から、町中が活気
に湧き、また春になるとニシ
ン漁で元気いっぱい威勢のい
い市場の掛け声の中での、新
制小樽緑陵高等学校に改称さ
れての学びや、朝の登校時間
には地獄坂を群れをなして這
い上がってくる仲間たち。正
直教室に入るとまずは一息つ
くのが毎日の日課。道内では
唯一道立一区で入学出来た学
校でもあり、高台にある寮か
らの弾む声もいまだに脳裡
残っている気がします。

校訓の中に「四恩を感謝す
べし」とあるごとく、多くの
諸先輩から引き継がれ同僚後
輩とともに、母校で教えられ
た一つ一つに感謝するととも



創立100周年 未来へとつながる夢と絆

北海道小樽商業高等学校

記念式典：10月12日(土)

にこれから先も大いに発展してほしいと願います。

これから更なる新しい世代へと進化してほしいものです。100周年おめでとう。

100年前に タイムスリップする街「小樽」

田中光隆（49期）

母校の創立100周年おめでとうございます。

さて、十年一昔と言いますが、100年前の小樽はどんなだったろうと、少し調べてみました。

小樽市は明治維新の3年前の幕末期、1865年（慶応元年）に誕生。当時の人口は314戸1、143人でした。



小樽大正ガラス

人々の生活を脅かす大凶作になった年でした。春から天候異変が続く、夏の平均気温が平年より2度前後も低く、特に8月は、2度以

す。それから33年後の1913年（大正2年）に我が母校、庁立小樽商業学校が開校しました。

この年は北海道では、活感が伝わってくる街になっ



日本銀行旧小樽支店（現金融資料館）

上も低くなったそうです。この状況の中、人々は食べられるものであれば何でも口にしようと、ヨモギ、フキ、ワラビといった野草はもちろん、稲わらを煮てやわらかくし、くず米と一緒にだんごにして食べたと伝わっています。

この様な厳しい時勢でも小樽にはこの年、常設映画館公演館が開館しました。娯楽の少ないこの時代に小樽市民は大喜びしたことでしょう。また、祝津の阿部民蔵さんが発動機を用いて手繰網操業を始めた年で、効率よい漁業の始まりでした。

翌年1914年（大正3年）に今は、小樽の観光資源である埋立式運河工事が始まります。当時は、潜水服の石工が石組みをする人海作戦なので、完成に9年もかかりました。

現在、「小樽の街そのものが生きた博物館」と言われるのは明治から大正にかけての歴史的建造物が街並みとして保存され、それら倉庫群は商業施設として使われ続けることで、100年前の街並みと、そこに生きた小樽の人々の生活感が伝わってくる街になっ

ているからです。

古いものはドンドン壊し、無機質なコンクリートの箱物が多い大都会に住んでいる私たちには本当にほっとする、魅力的な街「小樽」なのです。

お世話になった 3姉兄弟の小樽商業（緑陵）

村井 健（51期）

私の祖父母は富山からの開拓民で、私は日高山脈のふもとに生まれました。

地元には高校はなく、母方の叔父が小樽にいた縁で、長兄は小樽千秋工業高校へ、姉は南樽に下宿して小樽緑陵高校へ。翌年、次兄があこがれの？小樽緑陵高校へ。緑町の石屋さんの一室を間借り、姉弟で自炊して学校へ。中学3年生の夏、弟と行った緑町の商店街の活気に、「都会小樽」と驚いたこと、海で泳ぎ、味噌オデンを初めて食べた事を今でも思い出します。

同窓会の誘いのハガキに「いつか出席してみるか？」と言った次兄は46歳で他界。母校への愛着は東京尊商会総会へ出席するとヒシヒシと感じます。楽しい思い出は身体を健康にすると聴いていきます。思い出などが健康維持の

函館・羊蹄山の麓の町々、近くは古平・岩内からも来ていました。水泳部・柔道部・フキー部・サッカー部・卓球部体操部・野球部等に属しており、学校も寮も活気がありました。

誕生日には、5〜6人が苗子を持ち寄りコーラで乾杯寮では雪下ろし、餅つき大会バス旅行もありました。同組の寮生は20名。クラスでは寮生が10人ほど。皆勉強も運動も優秀。土・日曜日は皆でサッカー・ソフトボールと自分の庭のように校庭で走り回り時間があれば食堂の卓球台で汗してました。

卒業して46年。結婚、子育て、両親との別れ、子供の結婚など、身の回り中心が離れつつある時期、退職・嘱託筆第2の人生へ。同期の寮生も10人ほど上京し、現役中は皆で飽きずに喉を潤わせましたが、最近は機会も減り、孫の話が飛び交う会話に、驚いております。

エネルギーです。
東京尊商会会員様の今後の健康維持のためにも会の果たす役割を認識し、東京尊商会70周年（2020年）に向けて走りたいと思います。

100年の中の1095日間の高校生活が、走馬燈のように脳裏に蘇ります。これも優秀で豪快な諸先輩・後輩の皆さんのおかげと感謝しております。

未来に向かって！



徳光 礼子（55期）

創立100周年おめでとう



兄・龍雄さん（左）と村井さん▲



ジャンプ台からの当時の校舎▲



▲高校1年時、緑光寮の卒業記念撮影

小樽在住の本間寛さん（51期）から送られた現校舎の写真。8月10日撮影



2013.08.10

▲100周年の看板も大きく掲げられている

ございます。

昭和45年4月入学、担任は藤平勇先生、2年になってクラス替えをしても同じで、結局3年間同じであった。第一印象は随分お爺さんだなあと感じた。

今年、私はお爺さんと思った藤平先生をはるかに超え還暦を迎える。

学校創立100周年、55期、60歳の還暦、この数字の廻りあわせに不思議を感じ、幸せも感じる。

情報処理科一期生（スターとは事務科？）でもある。簿記やそろばんなどの商業科目もあった。

私たちのために富士通の中型機械が導入された。土谷先生は「どこを触っても、ボタンを押しても壊れないから大いに触ってなれたら良いよ」と言った。

自分の考えをプログラムに活かし機械を動かす楽しさを知った。考える楽しさも知った。

土谷先生は「君たち、そのうちに一人一台の時代が来るよ」とも言っていた。

この機械をどうやって背負うのか？と内心思った、私の発想力の無さを今思い出して笑ってしまう。

今、本当にその時代になっ

ている。

将来を見据えて商業高校の教育を考えるべきと卒業後に会ったときに言っていた。

思い出しても土谷先生、担任の藤平先生、岸下先生ほかとても熱心に指導していただいた。

文化祭ではクラスでコンピュータ占いを出した。当日は長蛇の列の大人気であった。

占いを完成するにあたってはプログラム、データ作りなど学校に泊まり込んだクラスメート達。もちろん土谷先生も付き合ってくれた。

数学の課外授業をしてくれた藤平先生、専門外の情報処理授業の予習をして指導してくれた岸下先生、何としても一期生を社会に巣立たせようと授業はじめて、とても熱心だった。当時は重たいとも思った。しかし、思い出とともに、私には宝になっている。

その土谷先生、藤平先生はこの世に居ない。

この年を一緒に迎えられなかったのは残念。自分が年をとったことを自覚するしかない。

後輩の皆様もこれから良い歩みをして下さい。未来に向かって！

平成 25 年 役員

職名	氏 名	期
顧問	古山 茂	3 6
顧問	藤田 賢治	3 6
顧問	高橋 光雄	3 9
顧問	宮尾 玲子	4 0
顧問	新井 博	4 1
相談役	島 久雄	4 1
会長	澤山 良一	4 2
副会長	中村みのり	4 1
副会長	小野 政春	4 9
副会長	田中 光隆	4 9
副会長	村松 次男	4 9
監事	星 観二	4 1
監事	水島 睦夫	4 3
幹事長	谷澤 忠之	4 6
常任理事	市川東紀宗	4 2
常任理事	原田登志子	4 3
常任理事	戸井 吾郎	4 7
常任理事	村井 健	5 1
常任理事	坂崎 登	5 3
常任理事	井上 和弘	6 9
理事	島田 俊子	3 7
理事	山田 美江	4 2
理事	土橋 弘幸	4 3
理事	矢嶋じん子	4 6
理事	倉重 敬子	4 6
理事	山田 幸雄	4 7
理事	須戸美代子	4 9
理事	野々村恵子	4 9
理事	木村 哲	4 9
理事	田中 則夫	5 1
理事	千葉 敏朗	5 3
理事	大高 敏孝	5 5
理事	成沢 桂	6 8
事務局長	浜谷 哲夫	4 5

平成 25 年 秋



北海道小樽商業高等学校 創立 100 周年記念事業協賛会

〒047-0034

北海道小樽市緑 3-4-1

・北海道小樽商業高等学校

TEL:0134-23-9231

FAX:0134-23-9234

・協賛会事務局

TEL:090-9516-0608

FAX:0134-24-8100

<http://otaru.org/sonsho/>

email:sonsho@otaru.org

お問い合わせ先
事務局

小樽商業高等学校

創立 100 周年

地獄坂

新たな世紀へ
揺籃の夢、再び

式典
祝賀会

平成 25 年 10 月 12 日 (土)

■ 記念式典: 午前 10 時 30 分 ~ 本校体育館

■ 祝賀懇親会: 午後 5 時 00 分 ~ グランドパーク 5F

お問い合わせ先 (商業高校内)

■ 記念事業協賛会 ☎ 090-9516-0608・FAX 24-8100

■ 小樽商業高校 ☎ 23-9231 ■ 専商会 ☎ 22-8393

◆ 事務局便り ◆

25 年度 東京尊商会総会 「同窓の絆」ご案内

日時: 10 月 19 日 (土) 16:00 ~ 18:00

場所: 八重洲富士屋ホテル 2 階 桜の間

当日尊商会本部の来賓より
100 周年の概況報告があります。
同期生お誘いの上ご参加ください
お待ち申し上げます。

事務局へのご連絡は

浜谷哲男

メール

会員の住所変更など、なんなりと御相談下さい。御意見大歓迎!

〓 編集後記 〓

『麦笛』発行人 (広報委員長) 交代

今麦笛 19 号より発行人 (広報委員長) を 51 期 村井健氏に交代する事となりました。

2004 年の創刊以来、9 年間皆様のご協力の下、試行錯誤を繰り返しながらも情報を発信し続けられました事、厚く御礼申し上げます。

新発行人 村井健氏は進取の気性に富み、新しいことには自ら率先して行動する人で、まさに新しい皮袋に新しい酒が入った感じです。

ご期待下さい。

最近、北海道でゴーヤ (ニガウリ)、マンゴーが採れると聞いています。

過去、沖縄での特産品であったゴーヤがやがて鹿児島で採れ、近年は福島、石川で採れ、遂に北海道と次第に北限を伸ばしているこの暑さは異常気象であります。

ものの本によると、地球の南極と北極は 5000 年毎に交替するとあり、

現在、地軸が 11°12 度、ずれていると最近の文献にありました。

南極を含め昨今の世界各地の異常気象による災害は、この影響かと勘ぐっています。

この異常気象に加え、新生児の出生数が年々減少し、現在ピーク時の半分以下と否応無しの高齢化は、これからの社会秩序・慣習を大きく変える動きになると思われます。

我々高齢者はどうしても過去の憶え、仕来り、教育などに基づいての判断、行動になりがちですが、無知を鍛え、我儘を抑え、年長の知恵を生かし、増え続ける病いに対応しながら気の合った人達と交流の輪を広げ、次代へのバトンタッチをスムーズに行いたいものです。